



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ソルガム・ジャパン・ホールディングス

コード番号 6636 URL <http://sorghum-ip.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 赤尾 伸悟

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長

(氏名) 中原 麗

TEL 03-3449-3939

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	1,674	△21.3	△915	—	△892	—	△765	—
28年3月期第3四半期	2,127	116.1	△1,291	—	△1,303	—	△1,963	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △790百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 △1,953百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
29年3月期第3四半期	△34.12	—
28年3月期第3四半期	△107.78	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	2,032	79.2	1,623	79.2		
28年3月期	2,128	60.8	1,303	60.8		

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 1,609百万円 28年3月期 1,295百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

当社は、現時点で今後の事業環境の変化を反映した合理的な連結業績予想を算出することが困難なため開示をしておりません。今後、連結業績予想が可能になりました段階で改めて公表いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社シスウェーブ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	26,471,120 株	28年3月期	21,114,212 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	167,538 株	28年3月期	167,538 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	22,437,197 株	28年3月期3Q	18,221,159 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3頁「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)における世界経済は、米国経済は穏やかな景気拡大が持続しましたが、昨年11月に米国次期大統領が決定してからは、就任後の政策が懸念されるなど、不透明感が生じております。欧州ではユーロ圏全体では堅調さを維持したものの、英国のEU離脱問題など、不安定要素が残っております。その他、新興各国では概ね減速ながら、一部で底打ち感もみられました。国内経済は、堅調な雇用に加え為替が円安基調へ転換したこと、景気に緩やかな回復傾向が見られました。

当社グループの中核事業領域である半導体業界、電気機器業界においては、国内外の業界再編が進行しており、世界経済の影響と相まって不透明感があり、当社グループにおいても継続的な顧客の価格性能比率向上の要求に応えるため、依然厳しい状況にありました。

そのような経営環境の中で当社グループは、手元資金の充実と組織再編のため平成28年11月30日付けで従来の中核事業領域であるテストソリューション事業(半導体事業)を展開する株式会社シスウェブの全株式を譲渡し、現在はレストラン・ウェディング事業及び新たな収益事業領域として位置付けるバイオ燃料事業を展開しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

テストソリューション事業におきましては、売上高8億66百万円(前年同期比22.3%減)となりました。国内半導体業界では安定的な需要を維持する自動車産業と堅調に立ち上がりつつあるIoT産業に下支えされ、第2四半期連結会計期間に引き続き技術者の不足感と高効率要求により、当社グループの開発業務受託及びプラットフォームを活かした製品は、受注及び販売共に順調に推移いたしました。損益につきましては、株式会社シスウェブの平成28年4月から平成28年11月までの損益を取り込んだ結果、セグメント利益32百万円(前年同期比51.3%減)となりました。

レストラン・ウェディング事業におきましては、売上高5億81百万円(前年同期比39.6%減)となりました。また、前連結会計年度より着手しています不採算店舗の統廃合、人材の配置転換による経営基盤及び赤字体質の改善策を継続して実施しております。さらに、メニュー構成の見直しによる仕入費用の削減、一部店舗においては営業時間の変更を行うことで稼働率が低下する時間帯の件数圧縮を図っております。さらに、第1四半期連結会計期間より継続しています各店舗のコンセプトに合わせた料飲メニュー、食材等による競合他店との差別化を実施し、昼夜時間別の来客層に合わせた価格帯にすることで集客の増加を目指しております。なお、結婚披露宴の成約件数につきましては、平成28年12月末時点で64件(前年度実績57件に対し112.3%)であり、今期の成約目標80件に対し80.0%の達成率となっております。また、青山店につきましては、結婚披露宴会場の用途を限定せずメインダイニングを企業説明会、テレビドラマ撮影、コマーシャル撮影等に提供し、閑散期の稼働率の向上を図っております。これらの施策によりレストラン・ウェディング事業におけるセグメント損失につきましては1億2百万円(前第3四半期連結累計期間はセグメント損失1億70百万円)となりました。

バイオ燃料事業におきましては、売上高2億26百万円(前年同期は32百万円)となり、第2四半期連結会計期間に続きメキシコにおいてスーパーソルガム種子の購入申込みを受け、当第3四半期連結累計期間において自主目標値である770tの受注を確保しました。また、平成28年9月にはメキシコ合衆国農畜水産農村開発食糧省(SAGARPA)より公式認定作物として栽培マニュアルへの登録も決定されるなどメキシコにおける販売活動は堅調に推移しています。さらに、タイにつきましても各国現地法人を通じてスーパーソルガム種子販売を推進しております。東南アジア諸国では、急激な経済発展、人口増加により深刻なエネルギー問題・食料問題を招いており、当社が取り扱うエネルギー作物であるスーパーソルガムは、その成長の早さや収穫量の多さから、当該問題を解決できる可能性がある植物として期待が寄せられており、タイにおける種子販売等、その他の国々においても、各顧客との交渉を進めております。これらのことから、バイオ燃料事業におけるセグメント損失は4億87百万円(前第3四半期連結累計期間はセグメント損失8億81百万円)となりました。

以上の結果、売上高は16億74百万円(前年同期比21.3%減)となりました。

損益につきましては、テストソリューション事業において、株式会社シスウェブの平成28年4月から平成28年11月までの損益しか取り込めないことや、依然バイオ燃料事業の立ち上げに係る営業費用が影響したことから、営業損失9億15百万円(前年同四半期は営業損失12億91百万円)、経常損失8億92百万円(前年同四半期は経常損失13億3百万円)及び親会社株主に帰属する四半期純損失7億65百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失19億63百万円)を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は20億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ96百万円減少いたしました。流動資産は14億74百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億5百万円増加いたしました。主な要因は現金及び預金の増加2億8百万円であります。固定資産は5億58百万円となり前連結会計年度末に比べて2億1百万円減少いたしました。そのうち、有形固定資産は65百万円となり33百万円減少いたしました。また、無形固定資産は2億70百万円となり1億26百万円減少いたしました。主な要因はのれんの償却93百万円であります。さらに、投資その他の資産は2億22百万円となり41百万円減少いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は4億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億15百万円減少いたしました。流動負債は2億96百万円となり、前連結会計年度末に比べて3億64百万円減少いたしました。主な要因は短期借入金の減少1億84百万円であります。固定負債は1億12百万円となり、前連結会計年度末と比べて51百万円減少いたしました。主な要因は長期繰延税金負債の減少33百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は16億23百万円となり、前連結会計年度末と比べ3億19百万円増加いたしました。これは、主に新株予約権の行使及び第三者割当増資により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ5億79百万円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失7億65百万円を計上したことによるものであります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の60.8%から79.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で今後の事業環境の変化等を反映した合理的な連結業績予想を算出することが困難なため開示をしておりません。

今後、連結業績予想が可能になりました段階で改めて公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成28年11月25日開催の取締役会において、平成28年11月30日付にて当社の完全子会社である株式会社シスウェーブ（以下、「シスウェーブ」という）の全株式をP C Iホールディングス株式会社（以下、「P C Iホールディングス」という）へ譲渡することを決議し、同日付でシスウェーブの全株式をP C Iホールディングスへ譲渡いたしました。これによりシスウェーブを連結の範囲から除外しております。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、重要性が増したSUPER Sorghum Mexico, S.A. DE C.V.を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで過去7期連続(単体は7期連続)して営業損失を計上しております。これにより継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在していると認識しております。このような状況を解消するために当社グループは、バイオ燃料事業においては、当第3四半期連結累計期間におけるメキシコでのスーパーソルガム種子販売105.40tにより2億26百万円の売上を計上しました。また、平成28年12月末時点におけるメキシコからのスーパーソルガム種子発注合計は、770.40t(内納品済105.40t)であり、中期経営計画にて策定しました販売計画に基づき推移しております。今後も中期経営計画達成に向けさらなる受注獲得を目指してまいります。また、タイにつきましては、国立カセサート大学による試験栽培のレポート提出を待ち、引続きSORG JT社とのスーパーソルガム種子の受注に関する契約に向けて協議を進め売上計上に繋げてまいります。レストラン・ウエディング事業につきましては、一部の不採算店舗閉店による赤字幅の圧縮、人材の配置転換、仕入先の改選、一部店舗の営業時間見直し等に加え、メニュー構成の見直しにより仕入費用削減、食材廃棄の圧縮を図っており、引続きコスト削減に努めます。これらの収益構造の改善によって年間70百万円の赤字解消を見込んでおります。今後も上記の着実な実行を図ることにより、安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得できる体制の構築に取り組んでまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	236,315	445,044
受取手形及び売掛金	438,055	295,302
商品及び製品	382,828	89,753
仕掛品	18,352	-
原材料及び貯蔵品	7,034	6,947
前払費用	48,929	22,850
短期貸付金	102,079	413,426
前渡金	3,356	148,425
貸倒引当金	-	△20,044
その他	131,889	72,899
流動資産合計	1,368,840	1,474,604
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	97,557	48,861
減価償却累計額	△36,450	△9,885
建物及び構築物(純額)	61,107	38,976
機械装置及び運搬具	26,194	26,200
減価償却累計額	△11,311	△15,337
機械装置及び運搬具(純額)	14,883	10,862
工具、器具及び備品	284,192	24,806
減価償却累計額	△261,384	△9,427
工具、器具及び備品(純額)	22,808	15,378
有形固定資産合計	98,799	65,217
無形固定資産		
ソフトウェア	4,428	2,464
のれん	311,262	217,883
営業権	80,944	50,000
その他	690	345
無形固定資産合計	397,325	270,693
投資その他の資産		
投資有価証券	70,205	87,491
敷金及び保証金	183,860	130,234
破産更生債権等	110,795	110,160
貸倒引当金	△110,795	△110,160
その他	9,770	4,413
投資その他の資産合計	263,835	222,139
固定資産合計	759,960	558,050
資産合計	2,128,800	2,032,655
負債の部		
流動負債		
買掛金	44,152	23,476
短期借入金	200,000	15,554
未払金	245,375	193,422
未払法人税等	8,976	3,369
賞与引当金	19,523	210
その他	142,930	60,759

流動負債合計	660,959	296,792
固定負債		
繰延税金負債	40,918	7,711
資産除去債務	49,827	35,524
その他	73,285	69,368
固定負債合計	164,030	112,605
負債合計	824,989	409,398
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,706,626	3,286,183
資本剰余金	3,328,440	3,907,997
利益剰余金	△4,680,186	△5,500,139
自己株式	△83,004	△83,004
株主資本合計	1,271,876	1,611,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	△1,119
為替換算調整勘定	23,272	△269
その他の包括利益累計額合計	23,272	△1,388
新株予約権	8,662	13,608
純資産合計	1,303,810	1,623,257
負債純資産合計	2,128,800	2,032,655

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	2,127,741	1,674,764
売上原価	1,195,164	1,050,272
売上総利益	932,577	624,492
販売費及び一般管理費	2,223,647	1,540,206
営業損失(△)	△1,291,070	△915,714
営業外収益		
受取利息	388	1,819
受取手数料	1,586	183
為替差益	-	35,116
補助金収入	-	5,114
雑収入	1,483	4,191
営業外収益合計	3,459	46,425
営業外費用		
支払利息	2,299	11,454
株式交付費	2,029	10,567
為替差損	8,396	-
その他	2,816	1,525
営業外費用合計	15,542	23,548
経常損失(△)	△1,303,153	△892,837
特別利益		
固定資産売却益	3,012	-
新株予約権戻入益	2,181	5,026
関係会社株式売却益	-	105,560
その他	149	-
特別利益合計	5,342	110,586
特別損失		
固定資産除売却損	104	516
減損損失	654,503	-
たな卸資産廃棄損	1,244	-
特別調査費用	16,264	-
特別損失合計	672,116	516
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,969,927	△782,767
法人税、住民税及び事業税	5,180	12,227
法人税等調整額	△11,298	△29,425
法人税等合計	△6,118	△17,198
四半期純損失(△)	△1,963,808	△765,568
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,963,808	△765,568

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純損失(△)	△1,963,808	△765,568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△1,119
為替換算調整勘定	9,954	△23,541
その他の包括利益合計	9,954	△24,660
四半期包括利益	△1,953,854	△790,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,953,854	△790,229

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

当社グループは、前連結会計年度まで過去7期連続(単体は7期連続)して営業損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失915,714千円を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、バイオ燃料事業においては、当第3四半期連結累計期間におけるメキシコでのスーパーソルガム種子販売105.40tにより、226,686千円の売上を計上しました。また、平成28年12月末時点におけるメキシコからのスーパーソルガム種子発注合計は、770.40t(内納品済105.40t)であり、中期経営計画にて策定しました販売計画に基づき推移しておりメキシコにおける販売計画であります770tの受注は確保いたしました。受注分に関しましては今期末までに納品を目指し、中期経営計画にて策定しました956tの販売計画との差分につきましては追加受注の交渉を行っております。また、タイにつきましては、タイ農業省から年間を通じた収量を確認したいとの要望を受けたことにより、一昨年6月からタイ国内において実施しました複数品種による性能比較試験(試験栽培)を平成28年6月に完了させ、新たにタイ農業省指定の国立カセサート大学が加わり試験栽培レポート作成を依頼しており完了を待つ状態です。当社としましては、タイ国立カセサート大学、販売先であるSORG JT社との間で引き続きスーパーソルガム種子販売に関する契約に向けて協議を進め売上計上に繋げてまいります。なお、ベトナムにつきましては現地法人の代表者が体調不良により平成28年10月末日で退任しており、後任の代表者を就任させ営業活動を継続していますが、前任の代表者からの引継が円滑に行えていないことから、ベトナムにおけるスーパーソルガム種子販売は予定より遅れております。

レストラン・ウェディング事業につきましては、前期より継続して実施してきました不採算店舗閉店による赤字幅の圧縮、人件費削減のための人材配置転換、仕入先の改選、一部店舗の営業時間見直し等に加え、メニュー構成の見直しにより仕入費用削減、食材廃棄の圧縮を図っており、引続きコスト削減に努めます。これらの収益構造の改善によって年間70,000千円の赤字解消を見込んでおります。今後も上記の着実な実行により、安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得できる体制の構築に取り組んでまいります。

しかしながら、これらの施策については、受注動向や経済環境によって影響を受ける可能性があるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

当第3四半期連結累計期間において、当社が発行いたしました新株予約権の行使により、資本金が179,557千円、資本準備金が179,557千円、第三者割当による新株式の発行により資本金が399,999千円、資本準備金が399,999千円それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,286,183千円、資本剰余金が3,907,997千円となっております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。